白石踊後継者育成事業　白石踊会笠岡支部　今月の活動（令和８年６月～10 月）

令和８年６月～10 月の白石踊に関わる高校生の活動について報告します。

1. 「島の宝を守る」出版記念講演会





2026 年６月 20 日に「『島の宝を守る』出版記念講演会」が開催できました。

この本には、高校生たち若者による白石踊を受け継ごうとする活動や白石踊の歴史がノンフィクション小説の形で描かれています。

著者の山本慎一氏をお招きしてご講演いただきました。舞台では白石踊を若い踊り手も混じって披露し、島の若者を代表して天野佑里さんのスピーチには会場が感動しました。（このときの様子は、白石踊会笠岡支部 定期練習会の報告「2026 年６月６日の定期練習会、講演会「島の宝を守る」の様子」のなかで詳細をご報告しています。）

高校生たちは、当日の司会などの運営を担当したり、舞台上で白石踊を踊ったり、高校生からの活動報告を述べたりしました。以下に高校生の感想を述べます。

「島の宝を守る」出版記念講演会が開催されました。この本には、島外の高校生がどんな風に白石踊の継承活動を始めたのかが描かれています。この活動は後輩にも引き継がれており、今では全国的にも知られるようになりました。実はこの活動は私も参加しています！講演会当日、私は司会を務めました。他校の高校生メンバーは、会場の整備や準備を行いました。私は司会を務める上で、滞りなくスケジュールを進めることができるように台本を考えました。当日、会場準備や掲示物などを行い、ついに会場にお客様が入り始めた！という時、それまで感じていなかった緊張感に襲われました。そんな時、他のメンバーに「大丈夫だよ！頑張って」と言われ、無事やり切ることができました。いざ始まってまると、会場の方がすごく暖かく見守ってくださり、安心して話すことができました。島の大学生の方のお話や山本先生の講演も、舞台袖から見させていただきました。言葉や行動の節々から白石島、白石踊に対する熱い情熱が伝わってくるとても素敵な講演でした。講演会終了後、会場に来てくださっていた方から「司会上手かったよ！」「アドリブ入れていて、はきはき喋っていてすごかった」と声をかけていただき、達成感を感じました。　（文章：吉原理絵）



山本慎一氏ご講演


高校生の司会


高校生による活動報告

『島の宝を守る』出版記念講演会では、私は高校生による白石踊継承活動について発表を行い、改めてこの活動の意義を考える機会になりました。

私の発表では、高校生による白石踊継承活動の始まりや、現在行っている継承・交流・広報・環境の 4 つの柱で行っている高校生の伝承活動について紹介しました。発表後には会場に来られていた方々から「よく頑張っているね」「ありがとう」と温かい言葉をかけていただき、白石島に縁もゆかりもなかった私たち高校生を受け入れ、応援してくださる地域の方々の存在の大きさを感じ、とてもうれしく思いました。

また、白石踊が約 800 年もの間受け継がれてきたことに改めてその重みを感じました。那須与一が源平合戦で活躍した時代から始まった伝承活動は、スマートフォンや SNS が普及し、生活がとても便利になった現代でも続いています。それは、多くの人々が「白石踊を残したい」という思いを強く持っているからであって、その思いは時代を超えて受け継がれているのだと実感しました。そして、私自身もその長い歴史の中の一人として活動に関わっていることを改めて認識し、この貴重な伝統をこれからも次の世代へつないでいきたいという思いがより強くなりました。

（文章：岡野日向子）

今回の出版記念講演会では白石島や今まで踊って来た白石踊の歴史を学ぶことだけでなく、知らなかった白石島の風景や現在の課題について知ることができました。

今まで私の中ではあまり深い歴史があるなど思ってきたこともなく、軽い気持ちで認識いていましたが、今回の講演会で白石踊が多くの人から愛され、継承されてきていると知り、とても昔からあるものが今まで残っているものとして白石踊を見ると、感じ方が大きく変わりました。それを知った上で踊ってみると、自分は今、白石踊を継承しているという責任感を感じました。

誰でも踊りの輪に歓迎してくれるという点も白石踊が今まで継承られ続けられた要因だと思います。実際に私も笠岡公民館の定期練習会場に行くと沢山の人から声をかけていただき、練習では優しく、そして確実に教えていただきました。

今回の講演会で白石踊についての私の見方を変えることにつながりました。これからも白石踊の良さを全世界に伝えるために、練習に励み、50 年先まで伝わるようなとてもかっこよく、迫力に溢れた踊りをしようと思います。（文章：坂本蒼空）

6 月 20 日に笠岡市のギャラクシーホールの舞台で白石踊を踊りました。高校生になって初めての舞台でもあり、他校の高校生とチームになって活動を始める第一歩でもありました。当日は特に緊張することなく楽しむことができ、ご来場いただいた皆様に披露できとても嬉しかったです。

本番では高校生 4 人それぞれが役割をしっかりと果たし、他の大会などの発表に向けても大きな自信をつけることができました。

この公演を終えて、伝統のある白石踊をより沢山の人に伝えたいという気持ちや、自分たち高校生にできることは何かを本番前よりも深く考えることもでき、今後は笠岡市の人だけでなく、県外の方や海外の方にも白石踊の魅力を広く伝えていきたいと思っています。（文章：中川花鳳）

2. 白石踊鑑賞・体験ツアー

2026 年 7 月 11 日に白石踊鑑賞・体験ツアーがありました。ツアー参加のお客様に白石踊を披露するメンバーに抜擢された高校生もいます。観光客の皆様に白石踊を習ってもらい一緒に踊る際には、他の高校生たちもお客様の間に入って、踊りました。





3. 高校生ボランティア・アワード 2026 全国大会

2026 年 8 月 4 日～5 日に新宿住友三角広場で高校生ボランティア･アワード 2026 が開催されました。私たちは活動内容をまとめた右のポスターを作って応募したところ、会場でブース発表ができることになりました。

私たちのブースに来てくださった高校生や一般の方々に、白石踊や笠岡の魅力を説明しました。全国から集まった高校生たちとの交流の機会になりました。









4. 第 11 回全国高校生ＳＢＰ交流フェア



三重県伊勢市 皇學館大学にて開催されたＳＢＰアワードでは全国から 7 チームがステージで発表できます。私たちのチームもオンライン審査（右写真）を経て、その 7 チームに選ばれました。

大会は 8 月 21 日～22 日にありました。白石踊を披露するので白石踊の特訓をしてもらい、着付けも習得して会場に臨みました。

1 日目にステージでプレゼンテーションしました。その後に交流会があり、他のチームの活動を知る機会になり、高校生の仲間たちと話ができました。私たちは白石島の特産品や絵葉書などを販売しました。2 日目はワークショップと表彰式です。ベネッセ賞をいただきました。







5. コノヒトカン 1000 缶プロジェクト　社会課題解決アイデアコンテスト

コノヒトカンとは、まだ食べられるのに廃棄されてしまう食材を有効利用して作られた缶詰です。この缶詰を使って、社会課題を解決するアイデアを考え、発表する大会のファイナリストとして、プレゼンテーションしました。（2026 年 10 月 24 日）

これまで私たち高校生たちは、白石島の皆さんをはじめ、多くの方々から応援していただきながら活動を続けてきました。踊りを教えてくださる人、活動に必要なものを提供してくださる人、活動を広く知らせてくださる人、資金面で支援してくださる人。そうした多くの応援に支えられてきました。

だから、皆さんにコノヒトカンを活用して、感謝を伝えるイベントを企画して発表しました。具体的には、笠岡諸島の恵みである牡蠣を味わうバーベキューと、白石踊の体験を組み合わせた交流イベントです。舞台から会場の皆さんにも、このイベントに参加して一緒に白石踊をおどりましょう、と呼びかけました。





以上